

【全体概要】近年、飼養頭数の減少に伴い和子牛生産頭及び生乳生産量が減少しており、増産が求められている。長野県のような中山間地における中小規模経営では、限られた飼養頭数の中で生産性を向上させる必要がある。そこで、ICTの導入及び実証展示を行うことにより技術を普及し、分娩間隔の短縮や分娩事故リスクの低減といった繁殖性の改善を進めていく。この取組により和子牛の生産頭数や乳量の増産を図り、生産基盤の強化及び畜産農家の収益確保を目指す。

新品種・新技術等の概要

【ICTを活用した発情発見・分娩監視技術】

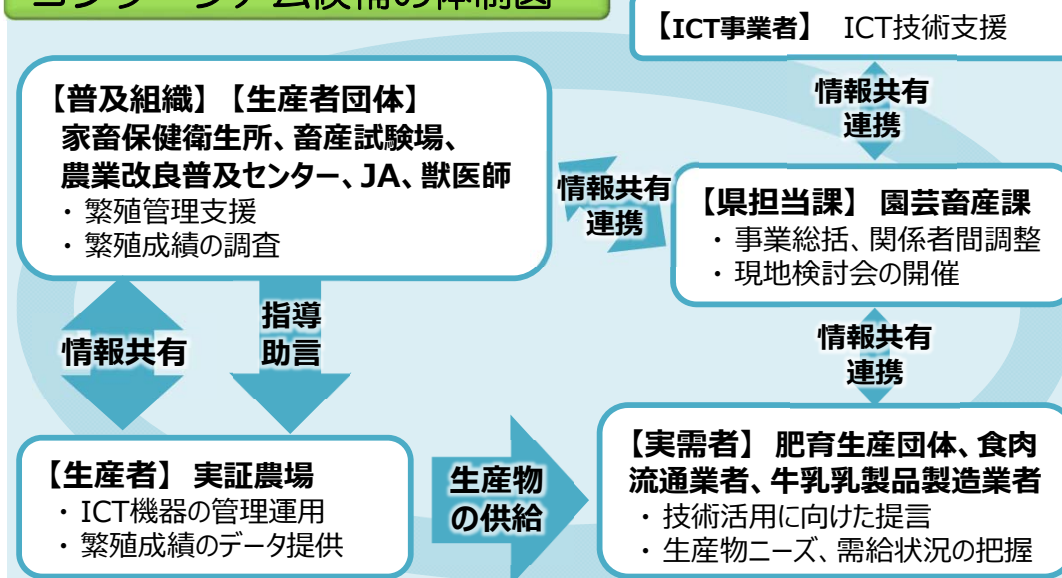
発情または分娩徴候をセンサーにて感知し、その情報を携帯端末やパソコンに通知する技術。
発情発見率の向上及び適期の種付け、分娩事故の低減により効率的に繁殖性を向上させることができる。



主な取組内容

- ・ 事業推進会議の開催
- ・ モデル農場の選定及びICT機器の設置
- ・ モデル農場におけるICTを活用した効率的飼養管理の実証展示
- ・ 実証農場における現地検討会の開催
- ・ 早期普及に向けた導入効果の調査
- ・ 実需者との意見交換会

コンソーシアム候補の体制図



課題と今後の対応

- ・ モデル農場を選定し、ICTを活用した効率的飼養管理について実証展示を行った。
- ・ 発情発見装置は酪農経営に、分娩監視装置は和牛繁殖経営にそれぞれ設置し、導入効果を調査した。
- ・ 今後は経営形態の異なる農場においても実証を行うとともに、現地検討会や普及活動により形成されたコンソーシアム候補にて生産者の状況にあった技術の活用方法を検討し、技術の定着と拡大を図る。